

《箕郷東小学校かんきょうほうしん》

地球にやさしいことをするために、「**I…いいこと、S…すすんで、O…おこなおう**」を合い言葉に、次のことに気をつけ、よりよいかんきょうにしていきます。

1 ゴミを進んで拾い、環境美化に努めます。

2 水や電気を節約します。

(ISO委員会が休み時間に校舎を回り、水の止め忘れや電気の消し忘れをチェックしたりします。)

3 花壇・学級園、グリーンカーテン等の手入れをすすんでします。

(環境委員会や総合学習等で取り組んでいます。)

4 地球温暖化防止(CO₂をへらす)について学習します。

(年1回全校集会で、ISO委員会による「環境集会」を実施します。)

5 アルミ缶やペットボトルキャップを回収し、資源を再利用します。

(毎月17日前後にISO委員会が回収します。現在は感染症対策のため休止中です)

《^{みさとひがししょうがっこう}箕郷東小学校かんきょうかつどうのてびき》

【^{でんき}電気】

- ^{つか}使っていない^{きょうしつ}教室や^{トイレ}の^{でんき}電気は^け消す。
- ^とグリーンカーテンを取り入れて、^{しやうりよう}エアコンの使用量をなるべく^へ減らす。

【水】

- ^{つか}むだな水を使わない。(はみがきの^{とき}時には、^{つか}コップを使う。)
- ^{つか}バケツの水を使って^{そうじ}そうじする
- ^{すいどう}水道の水が^だ出しっぱなしではないか^{チェック}チェックする。

【リサイクル・ゴミ】

- ^{かん}アルミ缶や^{すず}ペットボトルキャップを^{あつ}進んで集める。
- ^{ぎゅうにゅう}牛乳パックは^{かなら}必ず^{あつ}あらって、リサイクルする。
- ^{しやうす}使用済み^{あつ}インクカートリッジを集める。
- ^{すず}ゴミを^{あつ}進んでひろう

【その他】

- ^{いいんかい}ISO委員会が^{ちゆうしん}中心となり、「^{しんぶん}ISO新聞」を^{はっこう}発行し、^{かんきょうかつどう}環境活動への^{かんしん}関心を^{たか}高める。
- ^へCO₂を減らし、「^{ちきゅうおんだんかぼうし}地球温暖化防止」のために^{かんが}できることを考えるために、^{かんきょうしゅうかい}環境集会を^{ひら}開いて^{ぜんこう}全校で^{がくしゅう}学習する。

「たかさき学校 I S O」活動報告

高崎市立箕郷東小学校

1 取り組みの概要

箕郷東小学校では、I S Oの頭文字から考えた、

I・・・いいことを S・・・すすんで O・・・おこなおう

というキャッチフレーズのもと、I S O委員会と環境委員会が中心となって、資源・エネルギーを大切にし、自然に親しむ様々な活動に取り組んでいます。

2 令和4年度の活動内容

(1) 電気の節約

I S O委員会の児童が、毎日休み時間に校舎内を見回り、消し忘れがないかチェックしています。

- ・使わない電気を消す。
- ・消し忘れの多い場所に「節電ポスター」を貼り、注意を促す。

(2) 水の節約

I S O委員会の児童が、毎日休み時間に校舎内を見回り、水の無駄がないかチェックしています。

- ・むだな水を使わない。
- ・バケツの水を使ってそうじをする。
- ・水の止め忘れの多い水道付近に「節水ポスター」を貼り、注意を促す。

(3) 花壇や学級園等の手入れ

環境委員会が花壇の手入れをしています。また、生活科や理科、総合学習等で学級園を使って花や野菜を育てています。

(4) リサイクル・ゴミの減量

アルミ缶回収、ペットボトルキャップ回収を、月に1回、I S O委員会で実施しています。(今年度は感染症予防のため実施しませんでした)

給食時に出た燃やせるゴミや燃やせないゴミ、残したパン、リサイクルする牛乳パックなどを各クラスに用意した専用のバケツで収集し、ゴミの減量に取り組んでいます。

(5) 環境集会

環境集会では、ISO委員会の児童が各委員会の環境活動に対する取り組みを紹介しています。また、ペットボトルキャップやアルミ缶など、収集しているものがリサイクルされる仕組みも併せて発表します。今年度はタブレットを使い、児童がそれぞれ動画を作成、編集して全校児童に見てもらいました。

この集会を通して、学校内の活動だけでなく、日常生活の中でも「地球にやさしい」活動を心がけて行動できるよう全校児童へ向けて発信しています。

(6) その他（大清水川、竹林での学習活動や行事）

自然に恵まれた本校では、学校の隣を流れる大清水川とその周辺の竹林で遊んだり学習したりできることが大きな特長となっています。環境委員会で育てているサケも、この川に放流しています。

小さなうちから身近な自然に親しむことが、環境について考え、自然や地球を大切にしていこうとする気持ちを育む土台となると考えています。

3 取組の見直し及び今後の活動

身の回りの環境に関心を持ち、地球にやさしい暮らしをする児童を育てるため、今後もこれらの活動を継続していきたいと思います。

併せて、これまで取り組んできたエコ活動への理解をさらに深め、一人ひとりが意識し自分の身の回りの小さなことから環境活動の輪が広がるよう啓発していきたいです。

サケの飼育



総合的な学習の時間
(大清水川・竹林)



ペットボトルキャップ・アルミ缶回収



ISO委員会による
ポスターでの
呼びかけ